

2005 くすのき

VOL.16

樟
樹

樟樹会 新居浜西島小学校同窓会

校内こんなところ(こと)に存じですか？

第

6

回

制服が新しくなりました

教室にエアコン配備

快適な環境で勉強にも熱が入る



冬服(正制服)



オプション

昨年度、一足早く新しい夏の制服が登場したのに引き続き、今年度入学生より制服がすべて新しくなりました。夏の制服は「爽やか」という言葉がぴったりの涼しげなスタイルで、女子のブラウスは半袖・長袖の2タイプが揃っています。また、オプションとしてベストとセーターが用意されており、春・秋はベスト、冬場にはセーターをジャケットの下に着用できます。

冬服については男子が詰襟、女子はセーラーカラーでシンプルな印象の中にセンスが光るコーディネートです。「凛として美しい」をテーマに作られた新制服は、生徒の誇りとなり、地域の憧れとなるはずです。

昨年度末、第1教棟1階東の空き教室を利用したトレーニング室が完成しました。本校東に位置するトレーニングジム「ネバーランド」より譲り受けた数種類の器具が、設置されています。運動部の生徒を中心に大いに活用され、評判も良いようです。



トレーニング室



教室に設置されたエアコン

暑い真夏、厳しい真冬になると、「先生、学校にエアコンつけてよー。」「だめだめ、夏には汗を流しながら、冬には寒さに耐えてこそ、学力もつくんだから、我慢しな。」……とこんなふうな会話が交わされていたのも、今となっては昔の話。高校の教室にエアコンが入るなんて、夢の話かと思いきや、なんと、昨夏8月末に西高教室にエアコンが設置されました！

導入されるにあたっては保護者アンケートも取り(結果は圧倒的多数で、設置賛成だったそうです)、夏休み後期補習から実際に使用開始。8月から9月の厳しい残暑、12月からの冬の寒さも何のその。快適な環境で勉強できる幸せを、ひしひしと感じています。

トレーニング室完成

会 長 あ い さ つ

歴史と伝統の新居浜西高等学校樟樹会



樟樹会会長 畑 田 雅 敏

(昭和44年卒)

新居浜西高等学校樟樹会の会長に就任して1年が経ちました。昨年は、新居浜市が100年に一度といわれるほどの大水害に見舞われ、西高の体育館も床上浸水の被害に遭い、一時は運動場が使えなくなりました。同窓生の中にも床上浸水で畳の上に何10センチもの土砂がたまる被害を受けた家屋があり、生徒さんたちがボランティアで大変良く活躍してお礼の手紙も戴いたほどでした。

災害のために、西高祭自体が自粛としての開催となりましたので、例年同

窓会主催で行なっているたこ焼き等の模擬店をやむなく中止致しましたが、本年は盛大に行う事ができました。ご協力ありがとうございました。

色々予期しない出来事がございましたが、8月7日には、総会后、吹奏楽部の参助演奏があり、200余名の参加で盛大に懇親会を開催することができ、無事同窓会会長としての役目を果たすことができました。

本年は、4月から施行された個人情報保護法に則り、名簿の管理をしながら同窓会としての役割を果たさなければなりません。また、2007年は新居浜西高等学校創立90周年を迎えます。そのための同窓会としての役割を果たすべく、今から準備を進めなければならぬと考えております。名簿の発行や90周年に対するご意見がございましたらホームページにございますメールにて戴くか、同窓会事務局まで一報ください幸いです。

待望の2005年同窓会総会・懇親会は8月6日(土曜日)にレイグラッツイエふじ(ふじ結婚式場)を会場として開催されます。昨年同様OB・OG

の方々の多数のご参加をお待ちしております。そしてお元気なお顔をお見せいただき、来る90周年事業などの話題に花を咲かせていただければ同窓会としてこの上もない喜びでございますので、万障お繰り合わせでご参加していただきますようお願い申し上げます。

本年も、これまで以上のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。同窓会会長としての挨拶とさせていただきます。



昨年総会での会長あいさつ



同窓生紹介

「Goyaに魅せられて」



Profile

平尾 公彦

(ひらお きみひこ)

昭和39年 普通科卒

昭和49年 京都大学大学院工学研究科博士課程修了

名古屋大学助教授、同教授を経て

平成5年 東京大学大学院工学系研究科教授

平成16年 東京大学大学院工学系研究科長、工学部長

現在に至る

にその夢を果たせないでいる。気になつて時々その古本屋さん（もちろん場所も名前もわかっているが、あえて伏せておきたい）を覗きにいつている。最近では私のGoyaを見るはずっかり有名になり、私を訪れる外国からの客はGoyaの版画集を見つけたのでとか、BachのいいCDが発売されたのでいつて土産として持ってきてくれる。BachもGoyaに劣らず好きである。

新居浜西高という名前を聞いたとき、高校時代の恩師や友人、さまざまな思い出があざやかによみがえり、何ともなつかしい想いで一杯になった。母と妹が新居浜に在住しているが、忙しさのあまり、新居浜に帰郷する機会も少なくなっている。母校を訪れることもなく、私の中では新居浜西高は相変わらず、木造の古い校舎のままである。しかし、私の周りにいた友人や仲間、そして私自身が若く輝いていた。

現在は東京大学工学部で大半の時間を工学部長、工学系研究科長として気の重い管理的な仕事に従事している。年齢60近くになって研究者として残された時間を考えると、何となく寂しい気もする。よく妻から「あなたは研究のほかに趣味のない人だから、定年後は早くボケるのではと心配」と妙ないたわりを受けている。自分としてはいろいろなものに興味があり、決して学問一筋ではないと思っているが、家族には研究しかできないダメ人間に映っているように見える。

Goyaに夢中である。スペインで開催される国際会議やシンポジウムから招待を受ければ、よほどのことがない限り、引き受けることにしている。もう10回以上スペインを訪れている。もちろん目的は学会よりもGoyaにある。マドリードのプラド美術館をはじめとして、おもな美術館には何度も足しげく通った。最近はおもつたら地方の美術館めぐりを行っている。フランス国境にある1枚のGoyaを見るために長時間の列車の旅もした。Goyaに夢中になるとGoyaに関することは何でも集めたくなくなる。スペインへの旅の回数に比例して私のコレクションにGoyaの比率が増している。東京では秋になると古本市が神田で開かれる。毎年、古本市で探して回つてGoyaに関する本や画集を手に入れている。私のGoya好きには妻もあきれを通り越してもう諦めている。ある古本屋に素晴らしいGoyaの画集があり、英語版とスペイン語版の2種類あり、値段が15万円以上する。そのうち手に入れようと考えているが、いまだ

にその夢を果たせないでいる。気になつて時々その古本屋さん（もちろん場所も名前もわかっているが、あえて伏せておきたい）を覗きにいつている。最近では私のGoyaを見るはずっかり有名になり、私を訪れる外国からの客はGoyaの版画集を見つけたのでとか、BachのいいCDが発売されたのでいつて土産として持ってきてくれる。BachもGoyaに劣らず好きである。

新居浜西高を卒業したあと、京都大学で学んだ。その後は外国暮らし、滋賀医科大学、名古屋大学、そして現在の東京大学と勤務地をたびたび変えた。しかし、これまで住んだところはすべて気に入っている。気に入るように努力したと言ったほうが正しいかもしれない。まったく知らない職場や土地に移ると習慣や風土も違い、戸惑うことが多い。私はその土地の嫌いなところには目をつぶり、できるだけいいところだけを捜すようにしてきた。場所を移動することで、研究面でマイナスイになったことは一度もない。新しい土地に移るたびに、新しい友人ができるし、新しい発見がある。なにより人生を長く生きることができると考えてみると、私はいつも何かに夢中になるように自分を仕向けているのかもしれない。研究面でも同じで、夢中になれるものを追い続けている。

例のGoyaの画集を手に入れてゆっくり楽しむのはもう少し、先にしようと考えている。それまでは研究面はGoyaと同じくらい夢中になれるテーマを追い続けたいと思っている。

文化面、産業界など各界にわたり活躍されている同窓生をご紹介しますコーナーです

「卒業から8年目を迎え」



Profile

野澤 悠子

(のざわ ゆうこ)

平成10年 普通科卒

平成14年 北海道大学卒業

平成16年 京都大学大学院修士課程修了

平成16年 北海道埋蔵文化財センター臨時職員

現在に至る

略歴を見て頂くと、私は北海道大学卒となっています。事実です。ですが私の場合入学した大学が関西大学で、卒業した大学が北海道大学なのです。どういふことかと言いますと、私は最初に入った関西大学を2年で中退・北大へ編入という道を選んだのです。

高校3年当時、昼食を一緒に囲んでいた友人達が次々と第1希望の大学へ進学を決めていました。ある人は当然の結果としてある人は落ちると思っていたのに、と本人が心から驚くような強運で笑顔の卒業式を迎えていたのをよく記憶しています。しかしながら、センター試験の結果を受けて受験校のレベルを下げるにも関わらずそれでも落ちた私は、「3年間に満足している」と保護者を前に挨拶するクラスメイトの中で1人こう言ったのでした。「不満です」と。

「次に会う時には必ず『今は満足です』と言い切ります」と宣言していた私を、「人と違うことばかり言ってる」と母親は俯いて見ることができなかったのですが、この2年後に実際、行動を起こして結果として編入に成功したのでした。編入という行為は「もし希望通りの大学に行っていたら絶対にしなかったこと」と言い換えることもできます。編入して、失敗だったことも「次に起こる楽しいこと」の起点に過ぎなかったのですよ、などとうそぶけるようなカッコイイ筋書きにしてしまおう、絶対そうしよう、と思ったのです。

とはいえ、最初に入った大学にもアカデミックな事以外に学ぶものが無かったわけではありません。史学概説の某教授は最初の講義で「全ての講義を無欠席で通すなんて意味のないことだと大学1回生の半期で悟った」という名言を与えて下さいましたし(そして遠慮なく彼の講義を休みました)、「どうしても見たい美術展がある、変り種のバイトがある、自分で作ったサークルの会合がある、だから講義をサボる、大変有意義な理由です」と胸をはる彼をみて、何でもやってみようという気持ちになりました。

また競馬コメンテーターと官能小説(?)家の肩書きを持つ助教が「大学はどこへいくかではない。誰と会うかです」とおっしゃったこともまた忘れられません。それは彼らが自分の人生を重ねてきて本当にそうだったことを教訓として述べているからなのでしょう。

私は20代半ばになりましたが、色々やってきても未だに失敗を繰り返して、大なり小なり後悔を残すこともあり、人はいつにならば成熟するのかと生意気なこととも考えます。自分がこの先どう進むのかということに少し焦りを持つという点では高校生特に受験生と似たものがあるように思いますが、20代半ばというのはそういう年齢なのかもしれません。作家・伊坂幸太郎の作品から引用すれば、「人生は滅茶苦茶」であるらしいので、在校生の皆さんは精々失敗を繰り返して、無茶を試み、この先の道をトータルで満足だと言えるように歩んでいかれるよう祈っております。何せ人生は滅茶苦茶であつて構わないんですから。

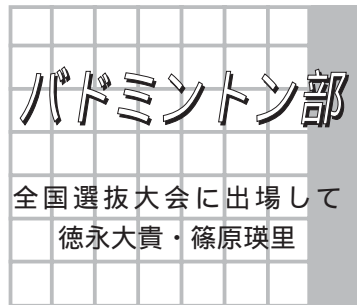
編集委員会から

野澤さんは、「寄稿文にありますとおり一発勝負のセンター試験の結果が思わしくなく、紆余曲折。しかし、「自分の目標に向かつて突き進まれ、Conservator(文化財の保存処理業務をする人)」「文化財の医者」といわれている)をライフワークと捕らえ、持ち前の語学力を武器に、国内外で技術を提供できる人材を目指されております。この分野の先進国であるイギリスへの留学を計画中です。



部活動の歩み

バドミントン部・新聞部



皆さんはバドミントンと聞いて、どんなイメージを持ちますか。身も心もリフレッシュできる手軽でレクリエーション的なスポーツというイメージを持つことが多いのではないかと思います。しかし私たちバドミントン部は勝つという目標を持って取り組んでいます。私たちの練習時間は、平日2時間半、休日は4時間と他の学校に比べて少ないうえ、30人を超える部員数ながら2面しか練習コートがないなど、決して練習環境は恵まれていたとはいえません。それでも、私たちは短い時間で効率よく練習し、最大の効果を上げようと努力しています。

そんな私たちを手助けしてくださる顧問の野村先生と松澤先生は、毎日のように練習に来てくださいます。効率のよい練習を行い、どうすれば私たちが勝つことができるかと考えてくださいます。時には厳しいこともありますが、私たちが対する思いが伝わってくるので私たちもよりいっそう頑張ることができるようになります。

私たちがこの部で一番誇りに思っているのは部員の仲の良さです。部活動中には互いに声をかけて励ましたり、わからないところを教えあったりしています。また、大会中には試合をしている選手のために全員で応援します。みんなが部全体のことを考えて行動できることが、この部のすばらしいところであると思っています。

このバドミントン部にチャンスが訪れました。それは毎年3月末にある「全国高校選抜バドミントン大会」が平成16年度は愛媛県で開催されるということでした。本来は四国大会で1位にならないれば出場できないこの大会に、愛媛県から2校参加できるという特別な大会になったことを意味するのです。出場できるかどうかは11月の新人大会の結果にかかっています。その大会に向けてみんながいつも以上に一生懸命に練習に取り組みました。そして結果は、男子3位、女子2位。男子は惜しくも出場を逃しましたが女子はみごと全国大会への出場を決めました。練習時間が短くても、コートの数が少なくても、私たちは全国大会に出場できたのです。それから大会までの4ヶ月間、多くの人に励まされながら私たちは練習に励みました。



そして大会当日、応援席を見上げると、いつものようにみんなの姿がありました。男子、そしてメンバーに入れなかった女子、全員が松山まで応援に来てくれたのです。本当に心強かったのを覚えています。結果としては1回戦負けでしたが、今までで一番の試合ができたので、とても満足しています。その試合の後も、全国レベルの試合を見て、いろいろと学ぶことができました。

今の私たちの目標は、男女そろって四国総体さらに全国大会に出場することです。この目標は、今年卒業した先輩方と交わした約束であり、私たち3年生が最終目標としていつも心に掲げていた目標でもあります。私たちに残された時間は長くはありません。悔いのないように、そして少しでも長くバドミントンをして、後輩にバドミントン部のすばらしい伝統を残すために一つ一つのプレイに集中して毎日の練習を大切にしていきたいと思っています。



新聞部

真・心・深・進・新聞BU

部長 山田響子

顧問 井上邦智



新聞部は部室もありますが、ここ進路室が実質的活動場所です。

私たち新聞部は、現在3年生4名、2年生5名の計9名で、顧問の井上邦智先生と一緒に年2シーズン活動しています。

といいますが、私たちの活動は『西高新聞』を発行する時が主でして、その発行も7月・3月と年2回なので、年2回の発行ですが、実際はほぼ3ヶ月前からとりかかります。

まずは、記事のネタ探しと構成です。構成が決まると、分担して取材や写真の撮影、原稿執筆と進んでいきます。原稿や写真が集まると、再度、構成を考えます。ここで、記事の取捨選択や

掲載順序、写真の取捨選択を行います。せつかく時間をかけて書いたのにボツになる記事も当然出てきますし、逆にもっと内容を厚くしていこうというものも出てきます。それで、最終的な原稿・写真が揃つと、印刷屋さんへ渡します。その後、校正を2〜3回行い、最終的に印刷されます。

写真は構成が決まってからでは遅きに失する場合がございますので、日頃から学校行事を中心に撮影しています。写真部ではありませんので、デジタルカメラは安物ですし、もちろん、写真の腕前は惨憺たるものです。それでも、下手ながらよく考え、撮る価値のあるものかどうかが、アングルや人物の大きさは適当か、表情はどうか……といったようなことに気を遣っています。毎年7月に出している新聞の「新任先生紹介」の写真は、いつも一番の笑顔をお願いします。って撮らせてもらっています。お手元に西高新聞をお持ちの方、どうぞそれに注目して見てくださいな。先生方の笑顔、とってもいいでしょ？

次に、記事についてですが、記事には、『いわゆる』、『定番モノ』、『旬のネタ』、『特集記事』があります。

『定番モノ』とは、ほぼ毎回または毎年掲載すると決まっている記事で、『校長先生のお話』、『生徒会役員紹介』、『部活動結果報告』、『Welcome to 西高・新任先生紹介』(7月)、『運動会』(3月)、『西高祭』(3月)、『修学旅行日記』(7月か3月いずれか)、『等です。』、『旬のネタ』はその名の通り、まさに時節に合った記事になります。今、西高でこんなことが起こっている、こんな事件があった……という旬の話題を提供しています。最近の西高新聞

の『旬のネタ』を拾ってみますと、



「教室にエアコン配備」(173号。H17・3)、「(全国選抜大会出場を控えた)バドミントン部に直撃インタビュー」(173号)、「(台風災害の)ボランティア活動」(173号)、「(中学生対象の)オーブンスクール」(173号)、「(ファッショブランド)コムサの新制服(冬服)」(173号)、「新しい部活(硬式テニス部・囲碁将棋部)紹介」(172号。H16・7)、「新しい制服(夏服)」(172号)、「(物理部)日本学生科学賞V5」(171号。H16・3)、「(合唱部の)全国高文祭日記」(171号)、「(世界4位入賞)世界へ翔く物理実験部」(170号。H15・7)といったものです。

さらに、『特集ネタ』も組んだりします。最新173号では、『西高トリビアの泉』と銘打ち、過去の西高新聞の記事から、特に興味があったもの、へえ〜とびっくりしたものの中から厳選したトリビアを特集記事としました。「感じのいい食堂」クラブハウス完成(昭和42年)、「新任生徒会役員決まる」(昭和42年)、「新生徒会役員決まる」(昭和42年)、「(昭和51年)」「(昭和51年)」「(昭和51年)」「(昭和51年)」「(昭和51年)」「(昭和51年)」長高に「西高角野分校」(昭和39年)、「長

髪、ついに許可される！(昭和40年)の4つの記事にしました。「クラブハウス・食堂」は今も使っていますし、「生徒会長鴻上君」とは、現在、日本の演劇界の第一人者である鴻上尚史さんのことです。あの鴻上尚史さんは、本校の卒業生というだけでなく、生徒会長も務められていたのですね。「南高はもと西高の角野分校」だったということはもちろん初めて知りました。また、昭和40年までは、西高の男子はみんな丸刈りだったんですね。逆に、今、丸刈りがおしゃれな髪型として流行っていることを思うと、隔世の感があります。

過去の「西高新聞」を見てみると、昭和40年代後半、昭和50年初頭頃は年間3〜4回発行しているようです。中には、「号外」として、臨時に発行しているものもありますので、当時は新聞部もとても熱い時代だったようです。ただ、最近は、各号ともA4判6ページですので、過去の新聞のA3、B4の2面構成に比べ、ポリユーム的には勝っています。紙質も格段に良くなっていますが、内容となると……昔の新聞には、かないませんか。

ところで、過去の「西高新聞」は全173号のうち、号外も入れて100号足らずしか保存されていませんでした。ここ10年間の新聞は全部ありますが、それ以前となると欠けている号も多いです。現存最古のものでも、昭和39年7月発行の第52号です。私たちは、とりあえず、今残っている「西高新聞」、これから発行するものを確実に保存し、「温故知新」の精神で、今後、充実した「西高新聞」を作っていきたいと思っています。

母校の概況

Niihama-Nishi High School

魅力ある西高づくりを目指して



校長 政岡 博

檀樹会の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また日頃から、母校の教育諸活動に対し、格別のご支援を賜っておりますこと、心より厚くお礼申し上げます。

およそ90年の長きにわたり、同窓生の皆様が築いてこられました歴史と伝統に輝く名門校新居浜西高の名に恥じぬよう、母校の一層の充実と発展を目指し、皆様のご期待に応えるべく全力を尽くす所存でございますので、よろしくご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

西高づくりの基本的な考え

ここ数年来、「魅力ある進学校」を目指し、種々の改革を進めて参りましたが、今年度は西高のさらなる発展・活性化を

願い、勉強と部活動の両立を目標に掲げ、魅力ある進学校を実現したいと考えています。西高生諸君には、学校生活色々な場面でもっともつと元気を出して、楽しく頑張ってもらい、校訓にある「自律生活」「自主学习」「自己鍛錬」の具現化を期待したいと思います。そこで、今年度は、以下のような数値目標を掲げ、日々頑張っているところで

- 行きたい大学への合格 90%以上
- 国立大学への合格者 200名以上
- 遅刻 欠席 各学年1日平均5名以下
- 異総体出場者 200名以上

主な具体的取組

2学期制、45分7時間授業
県下でトップを切って導入した2学期制も5年目を迎えています。行事の精選と授業時間の確保が目的ですが、45分7時間授業の実施により、さらに学習時間の確保と機能的な教育課程の編成が実現しました。長期休業日の短縮も併せて実施いたしております。また、学習シラバスを作成し、学習計画と目的の明確化を図るとともに、授業内容の改善と充実を進めています。

朝の読書
毎朝ショートホームルーム前の10分間を充て、朝の読書を始めました。生徒の活字離れ、読書離れを解決し、読解力や文章力を養いたいと考えています。全校一斉の静寂の時間は、なかなか好ましい雰囲気です。

習熟度別学習
本校生徒の学力差には、随分大きな開きがあります。特に、英数の2教科においては、習熟度の高い者とそうでない者とは同時に一斉授業を受けても、お互いに十分な学習成果は望めないと思われる。それぞれの生徒が共に充実感や達成感を感じることが出来る分かる授業の推進ということで、2、3年生で習熟度別授業を実施しています。

学習レディネス
本校に入学してくる生徒のほとんどが、中学時代には各校でトップクラスの成績をとっていたようですが、高校に入ると急に学習内容が難しくなったり、高校での生活に上手く順応できなかったり、1年早々に学業不振に陥ってしまう生徒が少なくありません。新入生がスムーズに西高ライフに入れるよう、四月当初に国立大洲青年の家で学習合宿（スプリングセミナー）の形で実施しました。

外国への修学旅行
本校教育目標の中にも、「個性豊かで国際感覚にあふれた人間を」とあるように、グローバル化した国際社会で活躍できる人材育成のために、多感な高校生時代に直接外国の若者と触れ合うことは大変貴重な体験になるものと考え、様々な困難・課題もありましたが、中国及びシン

ガポールへの修学旅行を計画・実施いたします。

リスニング補習
平成18年度からセンター試験で「リスニング」が課せられることになりました。外国語に対して日頃から聴き慣れておくことが大切です。そこで、週1、2回、放課後に補習の形でリスニングの指導を始めることにいたしました。また、昨年に引き続き土曜日の課外授業も実施する方針です。授業時間の確保と課外補習の実施により、進学対策に万全を期したいと考えています。

授業参観・公開授業
昨年度から実施しております「相互授業参観」「公開授業」を、今年度は年間2回、5月と11月に実施する予定です。教員同士の相互の研鑽と保護者など校外の皆様のご指導により、教員一人一人の授業力の向上を目指します。それがさらに、生徒一人一人の学力向上に繋がっていくものと期待しています。

その他、従前から実施しています「学校設定科目（16科目）」や総合的な学習の時間（「仰」の時間）をさらに充実・改善して、魅力と活力のある西高づくりを目指します。

以上、新しい西高づくりの一端を申し上げます。述べましたが、伝統に輝く西高の歴史に新しい時代の風を吹き込むべく、全教職員が一致協力して、素晴らしい素質を持った生徒たちを、有為の人材に育てて参る所存でございます。同窓生の皆様には、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

復旧に力を合わせて

～台風被害ボランティア～

昨年新居浜市をはじめとする愛媛県東予地方は、8月から10月にかけて、過去に例をみない多くの台風が上陸し、土石流や、土砂崩れ、河川が氾濫するなどにより、家屋の浸水や倒壊などが発生し、9人の方が亡くなられるなど、大きな被害を受けました。

被災した方々を支援するために、市内外から多くのボランティアが駆けつけてくれました。

西高生も、少しでも役に立てたらの思いから、8月末と10月初めのそれぞれ5日間、全校の有志でボランティア活動に参加し、復旧活動に取り組みました。

ボランティア活動に参加した生徒たちは、最初、被害に遭い、浸水したり、土砂に埋もれた多くの家屋を目の前にしたとき、台風の威力の凄まじさをまざまざと感じました。

市役所の方や先生の指示に従い、泥水やヘドロをかき出して、運ぶ作業を全員が泥と埃まみれになりながら、一所懸命に取り組みました。

みんな、声を掛け合いながらも、黙々と作業に向かっていきました。作業をやり終えると、充実感と、被災された方々からのお礼の言葉に温かい気持ちになりながら、被災された方、これからまだまだ大変だろうなという思いが強く残りました。

「ボランティアは、人のためにしてあげるものではなく、見返りを期待してはいけません。人として、当然そうあるべき助け合いの精神によるものである」という精神をまさに体験できたでしょう。



楠崎でのボランティア（写真提供・新居浜市）

教職員の異動

平成17年度の教職員異動は次のとおりです。

(教科) (転出者) (転出校)		(転入者) (前任校)	
校長	藤原 恵 松山南	政岡 博	津島
教頭	玉井 治樹 宇和島産	永井 英一	上浮穴
(校長任)			
事務	石本 親正 退職	河村 嘉男	川之江
国語	上野弘太郎 退職	山本 健司	栗平
地公	黒河 清之 西農	井原 恒久	生涯学習センター
数学	五味 稔 三島	林 広樹	(新採)
理科	村上 翼 退職	宇佐美秀文	今治西
保体	田川 文俊 小松	石川 裕司	西農
保体	藤原 勝彦 退職	山之内直樹	今治東
英語	谷口 淳子 小松	小池 佳子	宇南
英語	藤田 博子 丹原	宇和	
家庭	酒井 あや 宇和	久門 順子	土居
看護	岡田 緑 川之江		

16名の同窓生が母校の教壇に立つ

(氏名)	(卒業年)	(教科)
齋藤美智子	S 39	実習助手
中野 静江	S 45	実習助手
塩崎 勇人	S 46	地公
松本 温子	S 46	英語
石川美千子	S 47	国語
鴉 裕子	S 49	国語
井上 邦智	S 55	国語
渡奴 夏実	S 55	国語
星加 修史	S 58	保体
星加 啓子	S 60	英語
松長 健治	S 62	数学
井川 紀英	S 63	英語
山中 達也	H 2	国語
藤田 和生	H 6	理科
小池 佳子	H 9	英語
小西 歩美	H 13	家庭

大学合格一覧

最近3カ年の総合格者数と、大学別合格者数の一部を紹介しておきます。

	15年度	16年度	17年度
京都大	7	5	6
大阪大	5	3	4
神戸大	1	3	1
岡山大	10	21	11
広島大	7	8	10
愛媛大	29	31	28
九州大	7	2	2

	15年度	16年度	17年度
国立大	190	176	137
私立大	471	415	421

	15年度	16年度	17年度
北海道大	4	0	3
東北大	0	0	1
筑波大	2	3	0
東京大	4	3	1

年間行事計画

月	4	5	6	7	9	10	12	1	2	3
日	12 8	20 7	27 13	13	30 20 3	1 3	1	21	27	27 1
行事	入学式・前期始業式 (14日 大洲青年の家)	PTA総会 耐久徒歩大会	県総合体育大会 期考査 (6日 松山市)	西高祭 2年生修学旅行 (7月1日)	運動会 前期考査 (27日)	後期始業式 前期考査 (7日)	期考査 大学入試センター試験 (22日)	3年生家庭科学年未考査 (31日)	学年未考査 (3月6日)	卒業式 後期終業式

陸上競技部インターハイ!!

円盤投 瀧本将也 100m 飯尾杏子
 4x400mリレー
 大西実緒・安藤智世・竹内亜友美・田坂菜奈子

平成17年度県高等学校総合体育大会成績

6月3日～5日にかけて、県高等学校総合体育大会が松山市を中心に開催され、本校からも148名の生徒が参加し、各競技で活躍した。主な結果は以下の通り。

陸上競技

男子
 円盤投 瀧本 将也 39 m 41 (1位)
 100m 飯尾 杏子 12秒49 (2位)
 400m 大西 実緒 59秒96 (6位)
 4x100mリレー 竹内・安藤・田坂・飯尾 49秒97 (3位)
 4x400mリレー 大西・安藤・竹内・田坂 4分03秒43 (3位)
 四国大会出場

水泳

男子
 1500m自由形 仲村 元氣 18分39秒10
 200m平泳ぎ 小林 憲弘 2分51秒41
 四国大会出場

女子
 総合2位
 100m自由形 曾我部志帆 1分03秒93
 200m自由形 曾我部志帆 2分17秒63
 100m平泳ぎ 高津 綾香 1分20秒39
 200m平泳ぎ 高津 綾香 2分48秒11
 100m背泳ぎ 中村 志子 1分12秒66
 200m背泳ぎ 中村 志子 2分33秒50
 200m個人メドレー 日野すみれ 2分54秒30
 400mリレー 新西(小野・曾我部・高津・中村) 4分36秒74
 400mメドレーリレー 新西(中村・高津・曾我部・日野) 4分54秒35
 四国大会出場

テニス

男子
 新西0-3城南

バレーボール

女子
 1回戦 新西2-0内子
 2回戦 新西0-2今北

卓球

女子
 シングルス 1回戦 新西野口 3-2宇東
 2回戦 新西野口 1-3新田
 ダブルス 1回戦 新西野口・三木
 2回戦 新西野口・三木 3-2大洲

弓道

男子
 準々決勝 新西野口・三木 1-3済美

女子
 準々決勝 新西野口・三木 3-1三島

登山

男子
 団体 16位(予選敗退)

柔道

女子
 個人 48kg級 高木 梓
 1回戦 一本勝ち
 2回戦 優勢負け

バドミントン

男子
 団体 2回戦 準々決勝 新西3-0宇和
 シングルス(谷川) 新西2-3松北
 ベスト8 ベスト8

女子
 団体 2回戦 新西3-1松北

ハンドボール

男子
 準々決勝 新西3-0野村
 準決勝 新西3-0東温
 決勝 新西0-3新田
 女子団体は 四国大会出場
 ダブルス(丹・高橋) ベスト8

バスケットボール

男子
 1回戦 新西13-29新田
 2回戦 新西110-71聖陵
 1回戦 新西74-91松西
女子
 1回戦 新西59-74大洲

剣道

男子
 団体 1回戦 新西4-1八工
 2回戦 新西0-5松北

ダンス

「たりない...」 5位

新体操

個人(佐野) 総合14位

ソフトテニス

男子
 団体 1回戦 新西2-1宇東
 2回戦 新西1-2北宇

女子
 個人 2回戦 新西(福田・岸) 2-4聖力
 団体 1回戦 新西(戸田・松原) 2-4聖力
 2回戦 新西2-1大洲
 新西0-2八幡浜

新居浜の動き

台風による災害が相次ぐ

昨年は8月18日の台風15号の接近に伴う集中豪雨に始まり、10月20日の台風23号まで、5つの台風による被害が相次ぎ、土石流や山崩れ、河川の氾濫などにより、9名の尊い人命が失われました。



高速道路南側の山崩れ(大生院地区)



流失した滝の宮遊歩道

床上浸水1,300棟以上、床上浸水が2,300棟以上などをはじめ、道路の寸断や橋の流出など、市民生活に甚大な影響を与え、未だに避難生活を余儀なくされている方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

災害から復旧の見通しに光が見えてきたたびに襲ってきた災害に対して、被災に遭われた方々を勇気づけたのが、のべ、1万1千人にもおよんだ市内はもとより、県内外から駆けつけてくれたボランティアの方々でした。数多くの本校生徒も、ボランティアに参加しており、その様子は7ページを参考にしてください。

新居浜市では、被害を受けた道路や水路などのインフラ整備を急ぐとともに、今世紀中頃までには発生するであろう東南海・南海地震などを含み、市民と行政が協力し災害に備え、安心できるまちづくりの体制の整備をすすめ、全世界に防災マップを配布する予定としています。

大島の白いもが
構造改革特区に認定

大島で生産される「白いも」は、本市の特産物の一つですが、農業従事者の高齢化や後継者不足により、衰退しつつあります。この状況を打破するため、NPO法人である「GOODWILL」が島の活性化や交流人口の拡大、農業への理解促進を図るため、新居浜市へ提案し、構造改革特区に認定されました。事業の中には、「白いもを育て、収穫する」「オーナー制度」もありますので、「興味のある方は、GOODWILLのホームページ」(<http://www.nbn.ne.jp/goodwill/index.html>)をご覧ください。

また、「白いも」を使った特産品作りも進められており、3月6日には「白いも」手作りお菓子コンテストが開催され、本校生を含む16件の応募があり、審査員としても参加しました。



どれが一番おいしいかなあ

進む新居浜駅前土地区画整理事業
〜変わりゆく風景〜



事業実施前

新居浜テレコムプラザ屋上から
高木交差点を望む



現在の様子

新居浜駅前土地区画整理事業は、平成10年4月23日の事業認可後、用地の先行買収などの作業を行い、建物撤去が完了した場所から、道路・上下水道などの工事や宅地造成が始まり、新しいまちの姿が見えてきました。今後、新しい新居浜市の顔となるこの地区の様子を写真にて紹介していくこととします。



本部だより

【平成17年度事業計画（案）】

3月30日	樟樹編集委員会 「樟樹」16号印刷所承認・概要相談
4月13日	会計監査 平成16年度会計帳簿類 樟樹編集委員会
5月19日	第1回常任理事会 「樟樹」16号原稿依頼先および責任者決定 平成16年度事業報告 平成16年度会計決算報告 平成16年度会計監査報告 平成17年度役員改選 平成17年度事業計画案審議 平成17年度予算案審議 その他 樟樹編集委員会
6月13日	原稿持寄り・ページ構成・レイアウト打合わせ 第1回理事会 平成16年度事業報告 平成16年度会計決算報告 平成16年度会計監査報告 平成17年度役員改選 平成17年度事業計画案審議 平成17年度予算案審議 その他 樟樹編集委員会 前回分校正・第2次原稿持寄り 樟樹編集委員会 校正
7月13日	第2回常任理事会 平成17年度総会の準備について （総会の議事内容・運営方法、会員券の販売・招待者、チラシ、ポスター等） その他
8月15日	第2回理事会 平成17年度総会の準備について （総会の議事内容・運営方法、会員券の販売・招待者、チラシ、ポスター等） その他 樟樹編集委員会 最終校正 （西高窓）参加 模擬店（たこ焼き・焼きそば・フランクフルト・ラムネ販売） 「樟樹」16号発行 総会・懇親会
9月15日	平成16年度事業報告 平成16年度会計決算報告 平成16年度会計監査報告 平成17年度役員改選 平成17年度事業計画案審議 平成17年度予算案審議 その他
10月15日	第3回常任理事会 平成17年度の反省及び平成18年度の予定 役員構成について その他
11月15日	第3回理事会 平成17年度の反省及び平成18年度の予定 役員構成について その他
12月15日	同窓会入会式（新会員へ入会記念品贈呈） 同窓会賞授与 卒業式にて授与（全日制2名 定時制1名）

個人情報取扱いについて

- 現在同窓会において管理している会員の皆様の個人情報につきましては、
 - ・同窓会名簿の作成
 - ・同窓会総会等の各種同窓会活動の案内
 - ・同窓会誌、各種募金趣意書の発送
 - ・その他同窓会会則に基づく各種活動
 にのみ利用し、それ以外に利用いたしません。
- 同窓会にて、管理しているデータについて訂正、削除を希望される場合は、同窓会事務局までご連絡ください。
- 自己情報を照会したい場合は、当同窓会事務局までご連絡ください。ご本人であることが確認できた場合に限り開示いたします。

個人情報取扱いに関するお問い合わせの受付窓口

〒792-0024 新居浜市宮西町4-46
愛媛県立新居浜西高等学校同窓会事務局
TEL0897-32-4331 FAX0897-32-4331

平成16年度 総 会

昨年度の、樟樹会総会・懇親会が平成16年8月7日（土）ユアーズにて開催されました。多くの会員が集い、賑やかで楽しい夕べとなりました。
この日は、吹奏楽部による賛助演奏がありました。



会 員 からの 便 り

我が ゴールデンタイム



伊東 修身
いとう おさみ
(昭和39年卒)

西高卒業以来、もう41年もの長い歳月が過ぎてしまった。私は還暦を迎え両親もすでに亡く、息子・娘・孫とも東京、大阪と遠方に暮らしている。

18歳まで住んだ新居浜は潤いのないグレイの工都だった。高校を卒業して新居浜から離れるのが嬉しかった。

東京の大学で学んだ後、愛媛に帰り松山のマスコミ会社に就職をした。松山は文化的で歴史に育まれ、居住環境も快適で満足だった。

そこで深くも考えず、新居浜から松山市へ本籍を移してしまった。子供たちも当然のごとく仕事の地を本籍にした。

私の高校時代は戦後間もない混乱期に次ぐ第2次不良時代と称されてもいた。夜道の塾帰りに不良が追っかけて来て殴られることなど茶飯時で、放課後一宮神社の裏林に連れ込まれチェインで滅多打ちされた友人もいた。新居浜は殺伐とした灰色の町だったか。

新居浜平野から一気に1700メートル前後まで屹立する赤石山系、黒森山から笹ヶ峰に連なる高い山々はいつ見ても美しく厳しい。一時は土曜毎にこの山々に登ったものだ。

生徒会長の誼みで新聞部、美術部、文芸部、登山部、弓道部等々あちこちに顔を出した。おかげで高校入学試験では3番、最初の学力テストは13番、その次は40番くらい、その後は100番超えた番外地？

絵画は好きで飯尾先生の指導のもと、セッセと石膏デッサンをやっていた。夏休みに裸体画の講習会があった。前日から妄想でなかなか眠れなかった。さて翌日、講習が始まったら何てことはない。皆描画に集中、女生徒とも話しながらキャンバスを埋めていった。

秋深まる頃、一宮神社の太鼓祭りが始まる。この歳になっても心が躍る。ドンデンドン・ドンデンドン。今、砥部町に住んでいるが耳を澄ませば遠くからかすかに太鼓の音が聞こえるような気さえする。

祭りが終われば、はや11月、イソップ物語のキリギリスのように遅まきながら受験勉強を始めた。が、図書室での勉強の合間にふと本棚の「平家物語」を不覚にも手にとってしまった。そしてこの大長編を一気に読了してしまった。受験参考書を開いたのは12月となっていた。

こう振り返ってみると西高時代は意外と楽しかったじゃないか。もしかしたら我が人生のゴールデンタイムだったかもしれない。新居浜で山・川・懐かしい人達に育まれた私のふるさとを今、強く感じている。

第10回 近畿くすのき会

平成17年6月18日、第10回近畿くすのき会総会・懇親会が、総勢55名の出席で開催されました。本部からは、畑田雅敏樟樹会会長、政岡博学校長、世良賢克顧問、工藤順理事の4名が参加いたしました。

加藤幸則近畿くすのき会会長の挨拶に始まり、畑田樟樹会会長・政岡学校長の祝辞、会計報告、役員改選と無事議事終了となりました。

続いて、昭和41年卒で、大和ハウス工業代表取締役社長の村上健治さんによる「心豊かにたくましく生きる」と題しての、貴重なご講演をいただきました。学生時代のお話から、大和ハウス入社後の数々の体験談、先輩から教わったこと、体験から得たことなど、さすが1兆円企業の社長に上り詰めただけの事が有るすばらしい内容でした。その後の懇親会の席でも追加のご講演をいただきました。

学校長とも、できれば在校生にも村上氏のお話を聞かせる機会がもてれば、とおおいに話が盛り上がりました。有意義で、すばらしい総会となりました。



左から、政岡学校長、畑田会長、村上社長



同期会便り

三四会活動と方針

石川 弾久（昭和35年卒）

我が三四会は326名の卒業生の内、物故者23名、現存者303名で構成されておりですが、内32名の方とは連絡が取れず、現在271名で組織され、5年毎に総会を開いています。

初代会長曾我部君以下秋山、明比村上、白石、小林君が歴任し、昨秋の総会で私が7代目を引き受けました。

昨年の総会出席者は実に103名で恩師の津村、崎野両先生に御出席戴



ております。新居浜本部、近畿三四会、関東三四会が各地区毎に会同、交流します。

今年は既に地区別新年会、2月には砥部七折に梅見の会、5月には近畿三四会の御世話で信州蓼科旅行会を行い、20〜40名余の参加を得ました。

蓼科では昼はゴルフ、テニス、山登りに興じ、夜は温泉、カラオケ、ダンス、会話と至福の時を得る事が出来ました。又、7月に奥祖谷へ、8月はビール会、10月はベンガラのリ、備中吹屋へ一泊旅行、12月に忘年会、さらに来春には九州旅行が予定されております。

前記会同の為、役員は毎月一度昼食を共にして相談会を開き、関東地区の小見山君のメール網の中に各人が参加し、日々の情報を交換し合っております。私には地域の友、仕事を通じた友、趣味を同じくした友、多くの友人があります。しかし唯一、五分と五分のつきあいが出来るのは同級生の友人と想っております。私は歴代会長並びに役員が築き上げた伝統と団結を受け継ぎ、任期5年の間出来るだけ多くの会同の機会を提供していきたいと思っております。

昭和42年卒業生同期会

幹事 山内 仁（昭和42年卒）

昨年8月13日（金曜日）に、5名の恩師（村上孝一、越智謙、高橋正明、寺岡政晴、谷口真明先生）の御

出席を賜り、同期生70名が、リーガロイヤルホテル新居浜に集まりました。4年前の第2回目は、2名の先生を含め、80名が参加しました。

今回、人数は減少したものの、初参加10名も交え、久しぶりの懐かしい顔に会い、昔話に、花を咲かせました。その後、参加者の殆どが、二次会のカラオケで、盛り上がりました。

前回にも、紹介しましたが、この同期会とは別に、東京では、毎年、20名から30名の規模で、同期会を開催しており、大阪では、たまゆら会が、活動しております。

次回同期会は、2008年、北京五輪の年、8月13日（水曜日）を予定していますが、この年には、同期生のお大半が、還暦を迎えます。これを記念して、日時、場所共に工夫したいとも思っています。アイデアがあれば、幹事まで御連絡下さい。昭和42年卒業生の皆様、今から参加の準備をしておいてください。

平成6年卒業生

同期会に参加して

福田八重子（平成6年卒）

平成6年卒業生同期会が、今年1月2日の夜6時半からリーガロイヤルホテル新居浜で開催されました。毎年数人の友達には会っていましたが、学年全員と3年の先生全員に案内状が届き、200人近い同期会に参加するのは卒業して初めての事でした。

気がつけば10年の月日が流れていて、高校を卒業してからというもの、一人一人別の道を歩いてきたのだと実感しました。住んでいる場所も海外や、国内でも離れている友達が多くなかなか会えないのですが、そんな友達にたくさん会えて良かったです。仕事の話や家族の話など少しですが話をしただけでも心強くなりました。みんな頑張っているなあともたくさんパワーを同期会でもらい、今年はいつもと違う一年のスタートになりました。

懐かしい授業や高校生活を振り返り、高校の先生にも恵まれたことに感謝しています。忙しい正月にもかかわらず十数人の先生方が同期会に参加して下さいました。そしてたくさん集まった私たち同期生の団結力にも感動しました。また10年後の同期会を楽しみに頑張りたいと思います。



昭和38年卒

10月16日(土) 16時~
リーガロイヤルホテル新居浜
約70名参加
(提供 幹事 桑原征一さん)



昭和49年卒

8月14日(土) 18時~
レイグラッツェふじ
約60名参加 恩師9名招待
(提供 幹事 加地由照さん)

同期会のお知らせ

あなたのご出席
楽しみに待っています!

西高40の会(昭和59年卒)

40歳の年となりました。みなさんいかがおすごしですか?一つの区切りとして、みんなで集まってぱっと楽しみたいと同期会を企画しました。

更なるステップへのエネルギーいやいや、まだまだ若いことへの再確認...とにかく集いませんか?

記

日時 8月14日(日)
場所 リーガロイヤルホテル 新居浜
時間 午後6時
費用 6,000円

昭和44年卒同期会

3年前にお約束したとおり開催いたします。
詳細は後日会員宛ご案内いたします。

日時 平成18年1月2日

また、同期会HPにて情報を流しております。

<http://hi-hama.hp.infoseek.co.jp/index.html>

編集後記

16号の発刊にいたしました。皆様の温かいご支援により今号も発刊できますこと、深く感謝申し上げます。

昨年、15号発行以後、新居浜は未曾有の災害に見舞われ、台風が接近するたびに国領川が全国に継されました。私も被害を受けた一人ですが、今年には平穏であって欲しいものです。しかし、大洪水の次は空梅雨で、濁水の心配がでてきました。人間による環境破壊に対する自然からの復讐なのでしょう。

6号から編集委員長をお引き受けて、11回目の編集後記となります。私の欠点は後継者育てが下手なこと。おっさん(55歳)の編集より、若い方に早く変わっていただいた方が...と思いつつながら10年が経過してしまいました。今号から2人の若い委員に加わっていただきましたので、いずれ交代していただきたいと思っております。また、まだまだたくさんの方に参加をお願いします。手を挙げていただければ幸いです。

編集委員長 近藤 博司(昭44)

- 委員
- 藤本スマ子(昭18) 畑田 雅敏(昭44)
 - 井上和子(昭20) 伏見 紀子(昭44)
 - 世良 賢克(昭26) 塩崎 勇人(昭46)
 - 武田 信之(昭28) 渡邊 夏実(昭55)
 - 安藤 正純(昭30) 安藤 寛和(昭58)
 - 藤田 石根(昭31) 星加 啓子(昭60)
 - 桑原 征一(昭38) 越智 孝司(平2)
 - 長野 文彦(昭41) 高尾 智幸(平4)
 - 近藤 司(昭42) 日野 愛子(平12)

発行所 樟樹会

〒792 0024
新居浜市宮西町4 46
TEL 0897 32 4331
FAX 0897 32 4331
発行所 株式会社サラト
印刷所 近藤 博司
発行日 平成17年7月15日



榊樹会 新居浜西高等学校同窓会

ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~kusu/>
E-mail kusunoki@topaz.ocn.ne.jp